

しまかま

第8号

発行 わがまち大田蒲田西地区推進委員会
編集 地域情報紙編集委員会

わがまちの顔

下町の伝統文化を守る 高梨正光さん

最近では、琴や三味線の音色を聞く機会がめっきり少なくなってきました。そんな中、西蒲田五丁目（日本工学院そば）で、琴・三味線の販売、修理をしている「菊屋楽器店」を訪ねました。

創業七〇年、現在二代目のご主人高梨正光（昭和一九年八月生まれの五九才）が初代から引き継いで四〇年になります。「菊屋」は本家が本郷にあり、琴は菊屋、菊屋と言えば琴というほど由緒ある老舗の楽器店ということです。

八年ほど前に、東京都伝統工芸品指定店も受けています。高度成長期、そして、オイルショック後一〇年位は、琴、三味線の需要が伸び、店頭で販売する品物がなくなり、うれしい悲鳴をあげた時代もあったそうです。

琴の材料は、国産の桐ですが、三味線の材料は、紅木・花梨等インドやタイなど外国産の物を使っているとのこと。和楽

器の材料が外国産と言う話に複雑な思いがしましたが、学校用の物は中国で生産しているそうです。

琴の糸は、本来絹糸を使用しますが、絹糸は音色はいいのですが、すぐに切れてしまうので、最近は丈夫なテトロンを使うことが多いそうです。

三味線の皮は、猫皮（よつ）、犬皮（けんぴ）が使われているそうです。猫は腹の部分を使用するため、乳の跡が四つあることから、「よつ」と呼ぶそうです。犬は背の部分を使用していますが、いずれも外国産のもので、なめす技術は日本人でしか出来ないのが、加工は日本で行っています。犬皮より猫皮のほうが良い音色が出るので、猫の皮を使っている物が多いとのこと。

また、動物を扱っている職業上、年一回、両国の回向院にて、動物供養をしているという隠れたエピソードもお聞きしました。

中国産の和楽器がある一方で、一点一点手作業で生産している職人さんも今では一〇人ほどになつてしまひ、後継者が年々減つてきているのが現状です。「菊屋」も後継者がいないとのこと、非常に残念な事です。

今、中学校、高等学校の教育現場で、和楽器が必修授業になっているところもありますが、教える教師が、和楽器を使えるかどうか気になる事も多いそうで、学校で和楽器の指導を要請されれば、喜んで指導に行きたいのだが、とおつしやっていました。

琴の姿形詩心を誘う音色、古来文人が、最も愛した楽器だった琴、大切な伝統文化を守っている高梨さん頑張ってください。

（取材 伊藤、高橋委員）



琴の音色を調整する高梨さん

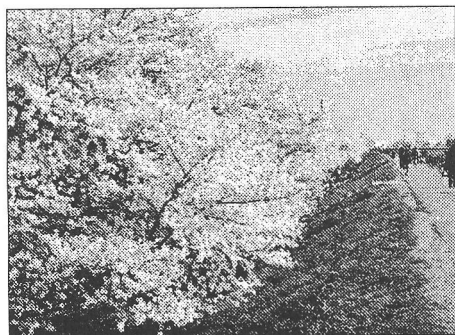
多摩川、四季折々



ここ多摩川二丁目トミンハイム・トミンタワー住宅に入居して、早くも五年になろうとしています。私の住む五階ベランダの目の前には多摩川がゆったりと流れ、河川敷には野球場、サッカー場、練習用のフィールドやトラック、また風揚げなどができる芝生の大広場があり、対岸には川崎競馬の練習馬場、そしてゴルフ場と連なり、たいへん緑が豊富などころです。さらに遠くの山並みの中、対岸の高層ビルの谷間には、富士山を望むことができます。また、大田区では現在もとても高い二五階建ての高さから、北を望むと、東京都庁をはじめとする新宿の高層ビル群、池袋サンシャインビル、東京タワー等は一望のもとで、このような素晴らしい環境のなかで生活ができることは本当に幸せです。

春はいろいろな草木が一斉に芽吹きます。一斉にとはい言いませんが、名も無い雑草が、自分に与えられた、ほんとうに短い一瞬のために一年の大半をじつと耐えて地中で出番を待ち続け、しかも交代のルールをきっちり守り、満を持しての芽吹きには感動させられます。はじめは、土手の斜面の雑草に隠れるようにオオイヌノフグリが紫の小さな花を咲かせ、やがて見る間に一角に広がりを見せ、それから何日も経たずに、もうほかの草たちに覆い隠されてしまいます。四、五ヶ月の間に入れ替わり立ち代りの交代を繰り返します。地味な雑草の交代劇に比べて最も華やかなのは、何といっても桜です。隣接の芙蓉ハイツ前、護岸の突堤に並ぶ二〇本の桜の古木が毎年、見事に開花して道行く人々の目を楽しませてくれます。多摩川の桜といえば、ガスの橋の上流に咲く桜ですが、タワーからもピンクの絨毯がはつきりと見え、居ながらにしてお

花見気分を味わうことができます。



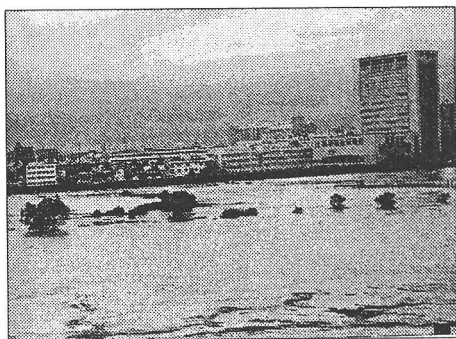
多摩川沿いに咲き誇る桜

五月に入りますと、近隣の公園や河川敷緑地のサツキやツツジが赤、白、ピンクと咲き乱れ、それは見事なものです。

夏は、いろいろなお祭りのシーズンですが、ここでの目玉は何といっても大田区花火大会です。リビングルームで一杯飲みながら、目の前に繰り広げられる大輪の連発花火を心ゆくまで楽しむことができます。

ただし、この快適な環境も良いことばかりではありません。ひとたび台風や暴風雨が来襲すると雨風を遮るものは無く、またともにベランダに吹き付け本当

に恐ろしくなります。特に激しかったのは、入居した翌年の八月一四日の台風でした。多摩川が大増水し、川幅が一挙に三倍以上に広がり、対岸の競馬練習場も一瞬のうちに水没しました。川岸にいた何人かは、逃げ遅れ、ヘリに救助されるという状況でした。この日、上流のキャンプ地では鉄砲水に呑みこまれ十数人が遭難するという悲惨な事故も発生しました。この洪水により、予定されていた翌日の花火大会は、残念ながら中止となりました。

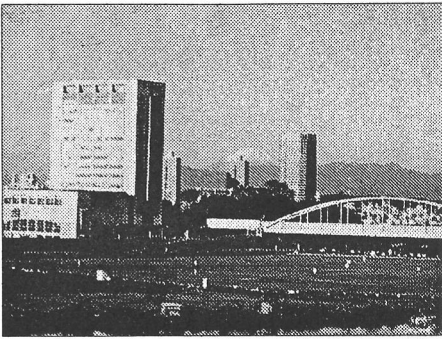


台風の豪雨で増水した多摩川

秋の早朝、川鶉の大群が飛来します。川面すれすれに飛び、あるいは着水し、水中の魚を狙っ

て次々ともぐる様は、たいへん豪快で何時まで見ていてもあきの来ない楽しいショーとなります。また、川面のアチラコチラで大きなボラのジャンプする姿を見ることが出来るのもこの季節です。

冬の天気の良い日で、とくに前日に強風が吹いた時は、遠くの富士山をはっきりと見ることが出来ます。真っ白に輝いていて、それはそれは素晴らしい眺めです。朝焼け、昼間の富士、夕焼け、日没の富士、その色合いも刻々変化して飽くことなく楽しむことが出来ます。



多摩川から見える富士山

また、季節によって太陽の沈む位置が移動します。二月末頃がちょうど富士山頂に沈む時期と

なり、人間の演出など一切受け付けない壮大なショーが繰り広げられます。

富士山頂はもちろんのこと、雪は大自然の素晴らしい贈物というべきでしょう。河川敷に積もる雪は高々一〇センチ程度ですが、見渡す限り土手から広場、対岸一帯を真っ白に覆いつくす様子は神々しくもあります。降り止むのも待ちきれず親子連れが雪合戦、雪だるま等に興じ、遊び戯れています。

このように、多摩川は周辺の人々に安らぎと楽しさを提供してくれると同時に、大自然の厳しさも見せつけるのです。今後とも、この環境をこよなく愛し、四季折々の移ろいを見守って行きたいものです。

(取材 宮腰委員)

トミンタワーって？

五年前に多摩川二丁目、旭化成研究所の跡地二万二〇〇〇平方メートルの敷地上に突然現れた大規模住宅郡です。地上九階建てのA棟、二五階建てのB棟、五階建てのC棟の三棟で構成され、四七五世帯が入居しています。建築の着工は平成七年一

月、竣工は平成一〇年七月と二年と八ヶ月で完成しました。現在、大田区内の建築物では、二五階は最高階数のはずです。

通称トミンタワーの正式名称は「トミンハイム・トミンタワー多摩川二丁目住宅」です。東京都住宅供給公社の賃貸住宅です。従来、蒲田西地区の自治会・町会数は一六でしたが、トミンタワーの住民が自治会を立ち上げて、現在は一七の自治会・町会に増加しました。

今回の特集記事「多摩川、四季折々」の筆者、宮腰義昭氏は、トミン多摩川二丁目自治会の設立に深くかわり、初代会長に就任され、自治会運営にも力を発揮し明るいまちづくりに努力しております。

(取材 滝口委員)

シリーズ村町名の由来①

「道塚」

伝記によれば「村内に小鳥塚と云う塚あり、その辺り古の鎌倉街道の古蹟（シヨウ）あり、ゆえを以って村名起り」と土人云へり」と記されている。

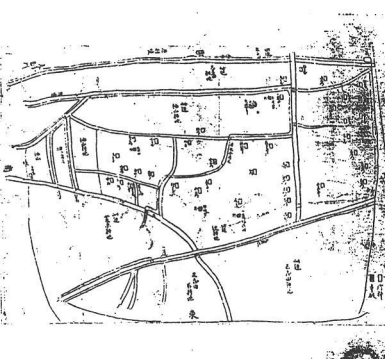
この塚は現存せず、西六郷一丁目の交番の道を隔てた西側の

辺りと言われている。小鳥塚又は独鈷塚と言われ、単に目印に建てたものと思われる。

また、私の手元にある天保五年（一八三四年）の古地図の写しには、この塚は人攫いの意味の子取り塚とある。当時は人家も少なく淋しい場所であったようだ（現在の道塚本通り。古くは池上道又は本門寺道）。

後には俗説ではあるが、お伊勢山、油山稲荷等、塚や祠が街道筋に三つ並んでいたことから三ツ塚と言われ、道塚に変化したとも言われている。この辺りは、昭和七年以前は東京府下荏原郡矢口村大字道塚と呼ばれていた。

(取材 加藤委員)



天保5年の古地図の写し

我が町御園

西蒲田七丁目御園町会

吉川 武夫

我が町会は、JR蒲田駅の西口に位置する商業と住居がまざりあう活気あふれる地域で、約一五〇〇世帯が住む町です。戦後すぐには、闇市等ができ復興は速かったようです。

その昔は、湿地であったとのことで、東急池上線蓮沼駅の名前のおり沼が多くあつたようで、下水設備が完備する前は、雨が多く降ると下水が溢れることも度々ありましたが、下水設備が完備され、区画整理事業も行われ、今は昔の話となりました。

また、以前の町名は「御園」であり、昭和二八年の町名変更で「西蒲田七丁目」となりました。

最近では、どこの地域でもマンションが多く建ち並ぶようになりましたが、町会内にも多くのマンションが造られ、世帯数や子供の数も増えつつあります。

町会として、様々な活動を行っています。主な行事としては、春秋の火災予防運動・交通安全

運動、年末の特別警戒、もちつき大会、敬老会、お祭り等、多岐にわたっています。

町会内には、大田都税事務所、大田区役所蒲田西特別出張所、矢口消防署西蒲田出張所があり、至便の場所となっています。

また、御園神社があり、東口の蒲田八幡神社と密接な関係があり、隔年で本祭りが行われます。大人神輿が二基ありますが、新神輿は近隣でも有名な神輿です。ちなみに新神輿は、北陸の刑務所で作られたものを落札したものです。

私たち役員一同、町会員の皆様と諸行事や会合を通じて、地域発展の為に努力してまいりますので、是非、行事へのご参加等、ご理解ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



楽しそうに神輿をかつぐ子ども達

事務局からのお知らせ

この四月一日付けで、蒲田西特別出張所長に着任しました小畑 功（おぼた いさお）です。

地域の身近な課題を解決するには、そこで生活をしている地域の人たちと区が連携と協働によって、その課題に取り組んでいくことが重要であると考えています。地域の皆さんと共に知恵と力を出し合って、蒲田西の地域に住んでいて良かったと実感できるような活力あるまちづくりに取り組んでいきたいと思っています。

なお、地域情報紙の担当が替わりました。担当の鎌田ともどもよろしく願いいたします。

編集後記

今回のわがまちの顔で紹介した菊屋楽器店の高梨さんは、二年前に「かまたニュース」でも取り上げられたことがある有名な人物です。今後とも和楽器を普及させるために、頑張ってください。

特集「多摩川、四季折々」は、宮腰委員の感じた多摩川を随筆調にまとめてみました。何となく心が和んでくれれば幸いです。

四月は、人事異動があり、都知事選や区議・区長選があり何かとせわしない中で、「かまし一七」の編集を行いました。今回から「パーソナル編集長」という編集ソフトを使用して作成しました。前号と多少感じが違うかもしれませんが、これからも愛読してくださるようお願いいたします。

蒲田西特別出張所管内

人口	男	29, 574人
	女	27, 305人
	計	56, 879人
世帯	29, 037世帯	

平成15年5月1日現在

情報紙に対するご意見・ご感想などを事務局までお寄せください。

事務局 蒲田西特別出張所

大田区西蒲田七丁目二一七

(三七三二) 四七八五